

関西学院交響楽団

学生 × OB

ALL KWANSEI ORCHESTRA

秋の中央講堂コンサート

新中央講堂(125周年記念講堂)竣工からスタートした企画は今年10周年を迎えました

10
year
Anniversary

★学生ステージ★

指揮 佐藤 周柁(文学部3年)
佐藤 陽紀(総合政策学部2年)

F.エロール 歌劇『ザンパ』序曲
J.バーンズ アルヴァマー序曲
服部 隆之 NHK大河ドラマ『真田丸』メインテーマ
K.バデルト パイレーツ・オブ・カリビアン メドレー
久石 譲 アシタカせっ記

★合同ステージ★

指揮 関本 悠羽(2024年理工学部卒)

P.I.チャイコフスキー
歌劇「エフゲニー・オネーギン」作品24 より ポロネーズ
大澤 寿人
交響組曲「路地よりの断章」より

第1曲 インヴェンション 第3曲 だるま 第4曲 夜想曲
楽譜提供:神戸女学院所蔵資料「大澤寿人遺作コレクション」

P.I.チャイコフスキー
交響曲第6番 短調 作品74 「悲愴」

開演前
ウェルカム
コンサート
開催



認定NPO法人
ミュージック・シェアリング



11.23 2025
SUN

14:00開演(13:30開場)

関西学院中央講堂
(関西学院 西宮上ヶ原キャンパス内)

就学前のお子様のご入場はご遠慮ください

主催:関西学院交響楽団、関西学院交響楽団OB会 後援:関西学院大学博物館

入場無料チャリティー形式 このコンサートへの寄付金は認定NPO法人「ミュージック・シェアリング」に納めさせていただきます



認定NPO法人
ミュージック・シェアリング

理事長 五嶋 みどり

HP <http://www.musicsharing.jp/>
Facebook @npomusicsharing
X @npomusicsharing
Instagram @npomusicsharing



Photo: T. Greenfield-Sanders

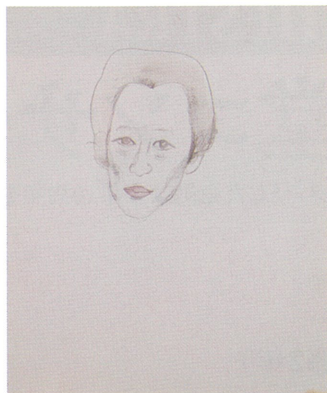
神戸に生まれた天才作曲家

大澤 壽人

おおさわ ひさと



関西学院大学学院史編纂室蔵
『高等商業学部第15回卒業記念アルバム』より



関西学院大学博物館蔵

ミュージック・シェアリング

日本の学校(特別支援学校や夜間中学を含む)、病院、児童・障害者・高齢者・矯正施設等を訪問し、子どもたちや様々な事情でコンサートホールに足を運ぶ機会の少ない人々へ本物の音楽を届ける「訪問プログラム」、特別支援学校の子どもたちに継続的な演奏指導を行う「楽器指導支援プログラム」、オーディションで選ばれた若手演奏家とカルテットを組んでアジアの開発途上地域と日本で国際文化交流を図る「ICEP(インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム)」を実施する他、設立30周年を機に山間地や離島などにある学校や地域に根付いた医療施設を定期的に訪問し音楽体験を提供する「Play & Joy !(プレー・アンド・ジョイ)」を開始した。音楽を通じて人々のクリエイティビティを高め続けるだけでなく、音楽家の社会活動に対する理解を深める場として、常に時代を先取りした音楽プログラムを実施している。

大澤 壽人(1906-1953)は1920年に関西学院中学部に入学し、グリークラブに所属。1926年には関西学院高等商業学部に入部し、オーケストラ部(現・関西学院交響楽団)に入部した。関学を卒業した1930年にボストンへ留学。その後34年にパリへ渡って活動した後、36年に帰国した。精力的に作品発表を行う一方で、37年からは神戸女学院大学で教壇に立った。戦後は神戸女学院大学教授となり、1951年の朝日放送開局にあたっては準備段階から関わった。52年に朝日放送専属指揮者となったが、1953年10月28日に急逝。

今回選曲した《交響組曲「路地よりの断章」》は1935年にパリで書かれた作品で、大澤が幼年時代に住んでいた神戸の脇浜(現・神戸市中央区)の路地で遊んでいた思い出が着想のもとになっている。関西学院交響楽団は佐渡裕氏を客演指揮者に迎えた2020年2月に開催した第134回定期演奏会でこの作品を取り上げ、2022年11月の「秋の中央講堂コンサート」でも演奏した。

今回は関西学院大学博物館の企画展「美術と文芸シリーズ 十河巖がつくる文化の庭—戦後の大阪朝日会館とアートプロデュース—」(10月20日～12月13日)の「企画展開催記念イベント」も兼ねていて、関西学院交響楽団OBでもある小味潤彦氏(同志社女子大学准教授、豊中市立文化芸術センター総合館長)の解説付きで演奏する。

関西学院交響楽団

1913年(大正2年)創部。九州大、慶應大に続く国内で三番目に古い歴史を誇る大学オーケストラで、2013年に100周年を迎えた。神戸・原田の森に関西学院があった大正期より中央講堂での演奏会や夏の演奏旅行を行っており、その活動は関西学生音楽界で評判を得ていた。近年、再評価の気運高まる作曲家・大澤 壽人(1906-53)は当団のOBであり、学生時代はピアノの名手として名を馳せていた。1929年秋、学院音楽部主催の演奏会において大澤のピアノでモーツァルト『ピアノ協奏曲第20番』を演奏しており、これが関西学生オーケストラ最初の協奏曲全楽章演奏だと言われている。第二次世界大戦のため、「学徒出陣壮行会」でのベートーヴェン『運命』第一楽章をもって活動を休止。終戦翌年の46年、復員した団員6名で活動を再開し、1951年には第1回目の定期演奏会を開催するに至った。1963年、創部50周年を記念した第24回定期演奏会において、日本の大学オーケストラでは初となるベートーヴェン第九交響曲の全楽章演奏を行う。1976年と1980年にはソビエト連邦共和国へ、また1989年と1992年にはオランダへ演奏旅行をし、いずれも高い評価を得た。ソニー音楽財団主催・全日本大学オーケストラ大会では講評委員会賞を4度、2000年にはグランプリを受賞。2014年、学院創立125周年記念音楽祭にて本学グリークラブと第九(男声合唱版)を共演。100年超の伝統と実力を誇るクラブ同士の演奏が話題となった。2017年8月、世界的ヴァイオリニスト・五嶋 龍の提唱した「project R “拉致被害者を忘れない。”」に参画。長野演奏旅行における講談師・旭堂南鷹の語り「親子の祈り～横田めぐみ物語～」の付随音楽、および五嶋とのメンデルスゾーン作曲・ヴァイオリン協奏曲の共演は、社会問題に取り組む姿勢と純度の高い演奏が満員の聴衆に大きな感動を与えた。2020年2月、阪神淡路大震災25周年メモリアルコンサートでは佐渡裕氏を客演指揮者として迎え、震災への想いを新たに被災地復興を願う演奏会となった。学生自身の手により音楽を作り上げる伝統は現在でも引き継がれており、精力的な活動を展開している。



関西学院報國文化部音楽科管弦楽班当時
昭和16年(1941年)秋から17年3月頃



創立70周年記念 第62回定期演奏会
1983年12月13日 ザ・シンフォニーホール

関西学院交響楽団 第146回定期演奏会

2026年2月10日(火)

兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール
客演指揮 齊藤 一郎

〈曲目〉

マーラー / 交響曲第1番 二長調「巨人」 他

関西学院中央講堂



※阪急電車 今津線「甲東園駅」下車 阪急バス「関西学院前」約5分 または 徒歩12分

※会場には専用駐車場はございません。周辺駐車場(有料)をご利用ください。

※関西学院大学正門から入ると中央芝生広場が見えてきます。その広場の左側にある建物です。